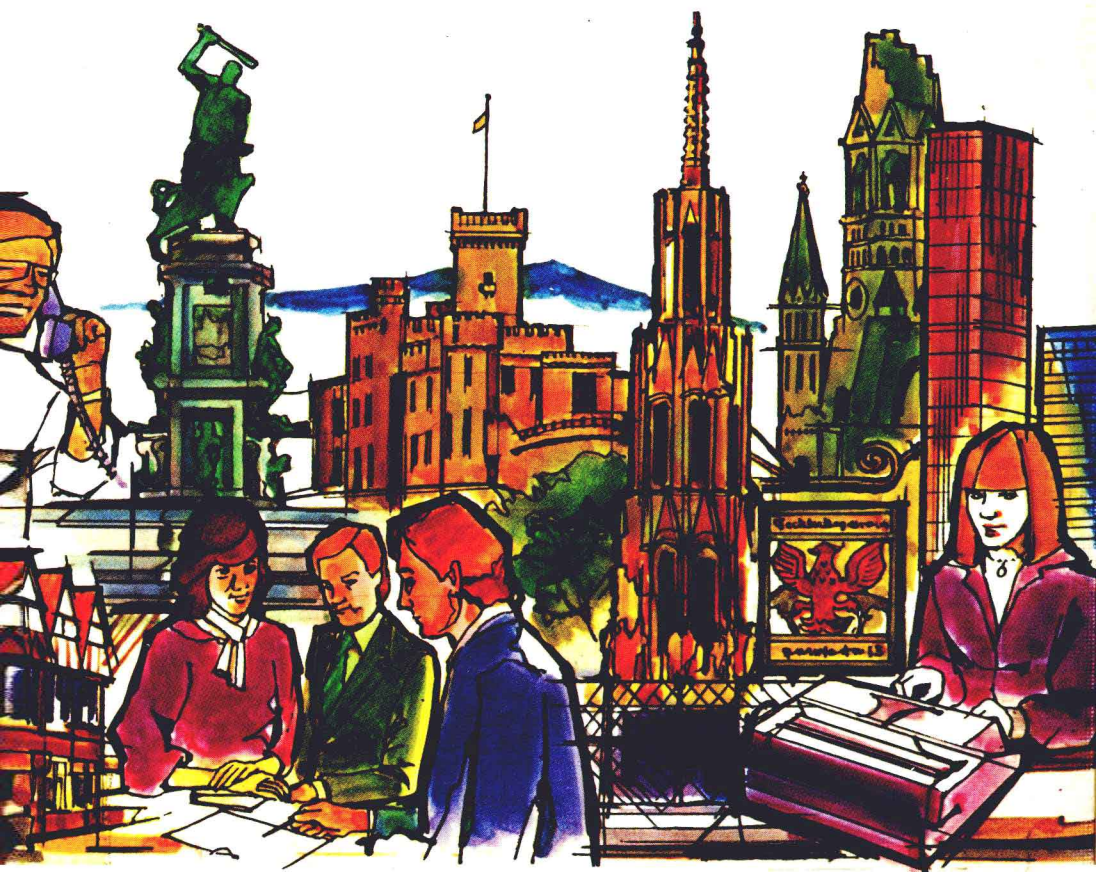


山川 丈平 著

2 色 刷

やさしいドイツ語入門

DEUTSCH FÜR ANFÄNGER



郁 文 堂

山川 丈平 著

やさしいドイツ語入門

DEUTSCH FÜR ANFÄNGER



郁 文 堂

山川 やさしいドイツ語入門

© 1979 年 7 月 発 行

定価 1400 円

著 者

やま かわ じょう へい
山 川 丈 平

1935 年東大独文科卒 九州大学名誉教授
現在福岡歯科大学教授

発 行 所

株式 郁 文 堂
会社

113 東京都文京区本郷 5-30-21 東大正門前
電話 (03) 814-5571 振替口座 東京 3-14981

整版・印刷 研究社印刷株式会社

1084-71400-0312

まえがき

この本ははじめてドイツ語を学ぶ人のための入門書として書かれました。すでに大学でドイツ語を学んでいる学生諸君にとっては講義の補習用として、また独学でドイツ語を勉強しようとする人々には独習用として、十分役立つように心がけて書いたものです。そこで ABC の第一歩から接続法のいろいろな用法まで、ふつう多くの文法教科書に配列してある順序に従って説明しました。つまりドイツ文法の全般がひととおり会得できて、中級読物へと進む橋渡しとなることを目指したわけです。そして説明は懇切丁寧をむねとし、読者の一人一人に親しく話しかける親切な家庭教師となって、自習の有効なお手伝いをすることを念願としております。この念願を満たすために著者が志した点は次のとおりです。

- (1) ドイツ語の発音は英語などと比べて比較的容易なのですが、単語に片カナを付して発音とアクセントを示しました。もちろんカナでは十分と言えませんが、発音の大体はわかるでしょう。
- (2) ドイツ文法の説明は何よりもわかりやすいことを心がけ、必要な事項は詳しくしましたが、初学者にとってさほど必要でない事項は簡略にしますか、ときには省略しました。
- (3) ドイツ語の姉妹語である英語をしばしば引合いにだしてドイツ語と対比し、ドイツ語の特性を理解する助けとしました。またドイツ語構文の特色であるワク構造についてはとくに 1 課を設けて詳しい説明を加えました。
- (4) 初学者の誤りやすい個所は適宜指摘して注意を喚起し、また必要のつど備考その他の所で「辞書の引き方」を説明し、「記憶するための目安」などにも言及しました。
- (5) ほとんど各課ごとに練習問題を設けました。学ぶ人はこれにより習得した文法知識を復習し、あわせて自分の力だめしをすることもできるでしょう。
- (6) 第 8 課以後にやさしい興味深い文章による読物を 9 篇と詩 1 篇を入れて読書力を養うことを目指しました。

1979 年 6 月

著 者

目 次

アルファベット	1
ドイツ語のアルファベットの発音	2

ドイツ語の発音

I. 発音の基本	5
II. 母音の発音	6
r の母音化	
III. 子音の発音	10
◆ 発音練習	16

第1課 動詞の現在人称変化 (1)

§ 1. 不 定 詞	17
§ 2. 現在人称変化	18
§ 3. 人称語尾の例外	19
§ 4. sein と haben の現在人称変化	21
§ 5. 定動詞の位置 (1)	22
◆ 練 習 1	23

第2課 冠詞と名詞(単数)

§ 6. 名詞の性と冠詞	26
§ 7. 名 詞 の 格	27
§ 8. 定冠詞の変化	28
§ 9. 不定冠詞の変化	28
§ 10. 名詞(単数)の変化	28
◆ 練 習 2	29

第3課 名詞の複数形

§ 11. 複数形の作り方	31
§ 12. 複数の格変化	32
§ 13. 男性弱変化名詞	33

§ 14.	特殊な変化をする男性・中性名詞	34
§ 15.	名詞変化一覧表	35
◆	練習 3	37

第4課 定冠詞類と不定冠詞類

§ 16.	定冠詞類	40
§ 17.	不定冠詞類	41
◆	練習 4	43

第5課 動詞の現在人称変化 (2), 命令法

§ 18.	幹母音の変わる動詞	45
§ 19.	命令法	48
◆	練習 5	49

第6課 人称代名詞

§ 20.	人称代名詞の格変化	52
§ 21.	3人称の人称代名詞について	53
§ 22.	人称代名詞2格の用法	53
§ 23.	3格と4格の目的語の語順	54
◆	練習 6	55

第7課 前置詞

§ 24.	前置詞の格支配	56
§ 25.	2格支配の前置詞	56
§ 26.	3格支配の前置詞	57
§ 27.	4格支配の前置詞	58
§ 28.	3・4格支配の前置詞	59
§ 29.	前置詞と定冠詞の縮合形	61
§ 30.	前置詞と人称代名詞の融合形	62
◆	練習 7	63

第8課 形容詞

§ 31.	強変化	65
§ 32.	弱変化	66

§ 33.	混 合 変 化	67
§ 34.	その他の注意	68
§ 35.	形容詞の名詞化	69
◆	練 習 8	71
読 章	Der Rhein	74

第 9 課 動詞の 3 要形と過去変化

§ 36.	弱変化動詞	76
§ 37.	強変化動詞	77
§ 38.	混合変化動詞	78
	sein, haben, werden の 3 要形	
§ 39.	過去分詞に ge- をつけない動詞	79
§ 40.	動詞の過去人称変化	80
	sein, haben, werden の過去人称変化	
◆	練 習 9	81

第 10 課 接 続 詞

§ 41.	並列の接続詞	83
§ 42.	副詞的接続詞	83
§ 43.	従属の接続詞	84
	定動詞の位置 (2)	
§ 44.	疑問接続詞	86
◆	練 習 10	86

第 11 課 未来と完了時称

§ 45.	未来の人称変化	89
§ 46.	未来の用法	89
§ 47.	完了時称の作り方	90
§ 48.	haben か sein か	90
§ 49.	現在完了の用法	92
§ 50.	過去完了の用法	93
§ 51.	未来完了の用法	94
◆	練 習 11	94

第12課 分離動詞と非分離動詞

§ 52.	分離動詞	97
§ 53.	非分離動詞	99
§ 54.	分離または非分離の動詞	99
◆	練習 12	101

読 章

Einseitiges Gedächtnis	103
----------------------------------	-----

第13課 話法の助動詞

§ 55.	話法の助動詞の現在人称変化	105
§ 56.	話法の助動詞の3要形	106
§ 57.	話法の助動詞の6時称	107
§ 58.	話法の助動詞の表わす意味	109
§ 59.	話法の助動詞に準ずる動詞	111
◆	練習 13	113

読 章

Ein Brief an einen Freund	115
-------------------------------------	-----

第14課 疑問代名詞, 不定代名詞

§ 60.	疑問代名詞 wer と was	118
§ 61.	welcher と was für ein	119
§ 62.	不定代名詞	120
◆	練習 14	123

第15課 指示代名詞, 所有代名詞

§ 63.	指示代名詞	124
	deren と derer の使いわけ	
§ 64.	所有代名詞	128
◆	練習 15	129

第16課 関係代名詞

§ 65.	定関係代名詞 der	131
	関係文の構造 先行詞の問題	
§ 66.	不定関係代名詞 wer と was	135

◆ 練習 16	138
-------------------	-----

読 章 Luther und ein Student	141
---	-----

第17課 再 帰 動 詞

§ 67. 再帰動詞と再帰代名詞	143
----------------------------	-----

◆ 練習 17	148
-------------------	-----

第18課 非人称動詞, es の用法

§ 68. 非人称動詞	151
-----------------------	-----

§ 69. es の用法	154
------------------------	-----

◆ 練習 18	157
-------------------	-----

第19課 形容詞・副詞の比較

§ 70. 形容詞の比較変化	159
--------------------------	-----

§ 71. 比較級の用法	160
------------------------	-----

§ 72. 最高級の用法	161
------------------------	-----

§ 73. 絶対的用法	163
-----------------------	-----

§ 74. 副詞の比較	164
-----------------------	-----

◆ 練習 19	165
-------------------	-----

読 章 Die Schweiz	167
----------------------------------	-----

第20課 受 動 態

§ 75. 受動態の作り方	169
werden について	

§ 76. 能動から受動への転換	171
----------------------------	-----

§ 77. 自動詞の受動	172
------------------------	-----

§ 78. 状態の受動	173
-----------------------	-----

◆ 練習 20	174
-------------------	-----

第21課 不定詞と分詞

§ 79. 不 定 詞	177
-----------------------	-----

§ 80. 分 詞	183
---------------------	-----

◆ 練習 21	188
-------------------	-----

第 22 課 接続法の形態と用法 (1)

§ 81.	接続法とは?	190
§ 82.	接続法の形態 sein, haben, werden の第 1 式・現在 第 2 式・現在	191
§ 83.	接続法第 1 式の用法	196
◆	練習 22	201
詩	Wer zum ersten Male liebt (<i>Heine</i>)	204

第 23 課 接続法の用法 (2)

§ 84.	接続法第 2 式の用法 wenn の省略 ob または wenn の省略	205
◆	練習 23	211
読 章	Ich möchte gern eine Lambretta haben	213

第 24 課 ワク構造, nicht の位置

§ 85.	ワ ク 構 造 ワク構造の守られない場合	215
§ 86.	nicht の位置	219

第 25 課 数 詞

§ 87.	基 数 数式の読み方 値段の読み方	223
§ 88.	序 数 日 付	225
§ 89.	分 数 時 刻	227
読 章	Freundschaftsdienste (<i>Brecht</i>)	229
読 章	Katze auf Vogelfang	232
読 章	Im Schnellzug	234

おもな強変化・混合変化動詞の変化表	239
事項索引	247

Das Alphabet

[das alfabe:t]

印刷体	筆記体	名称
A a	<i>A a</i>	[a:]
B b	<i>B b</i>	[be:]
C c	<i>C c</i>	[tse:]
D d	<i>D d</i>	[de:]
E e	<i>E e</i>	[e:]
F f	<i>F f</i>	[ɛf]
G g	<i>G g</i>	[ge:]
H h	<i>H h</i>	[ha:]
I i	<i>I i</i>	[i:]
J j	<i>J j</i>	[jɔt]
K k	<i>K k</i>	[ka:]
L l	<i>L l</i>	[ɛl]
M m	<i>M m</i>	[ɛm]
N n	<i>N n</i>	[ɛn]

印刷体	筆記体	名称
O o	<i>O o</i>	[o:]
P p	<i>P p</i>	[pe:]
Q q	<i>Q q</i>	[ku:]
R r	<i>R r</i>	[ɛr]
S s	<i>S s</i>	[ɛs]
T t	<i>T t</i>	[te:]
U u	<i>U u</i>	[u:]
V v	<i>V v</i>	[faʊ]
W w	<i>W w</i>	[ve:]
X x	<i>X x</i>	[iks]
Y y	<i>Y y</i>	[ýpsilon]
Z z	<i>Z z</i>	[tsɛt]
Ä ä	<i>Ä ä</i>	[a:-ómlaut]
Ö ö	<i>Ö ö</i>	[o:-ómlaut]
Ü ü	<i>Ü ü</i>	[u:-ómlaut]
ß	<i>ß</i>	[ɛs-tsét]

ドイツ語のアルファベートの発音

ドイツ語の Alphabet [アルファベット] は、英語と同じく 26 文字が基礎になりますが、その他に、英語にはない ä, ö, ü それに ß の 4 つが加わります。このアルファベートの発音の仕方のあらましを説明しましょう。

A	a	[a:]	[アー]	口を大きく開き、舌を平らにして[アー]と発音します。「あーあ」と嘆息するときの[アー]です。
B	b	[be:]	[ベー]	くちびるを閉じて息をため、強く[ベー]と発音します。[e:] に注意してください。「ベイ」とならないように。
C	c	[tse:]	[ツェー]	舌を上歯茎の裏につけて息をため、すどく [ツェー] と発音します。「チェー」とならないように。[e:] に注意。
D	d	[de:]	[デー]	舌を上歯茎の裏につけて息をため、破裂するように [デー]。「ディー」にならないように。[e:] に注意。
E	e	[e:]	[エー]	口をあまりたてに開かないで(日本語の「エ」よりも少し閉じぎみにして)、くちびるを横にひきしめるようにして、つまり微笑の口形で、「エ」と「イ」の中間ぐらいの音にします。発音記号に [e:] という記号が含まれていれば、つねにこの音です。
F	f	[ɛf]	[エフ]	[ɛ] の記号の「エ」は、口の開きが広い「エ」で日本語の「エ」に近い音です。それに下くちびるに上歯をあてて「フ」の音を添えて [エフ] と発音します。
G	g	[ge:]	[ゲー]	また [e:] です。[ɛ] と [e:] の違いに注意してください。
H	h	[ha:]	[ハー]	口を大きく開き、[ハー] と発音します。

I	i	[i:]	[イー]	口をほとんどたてに開かないで(日本語の「イ」よりも少し閉じぎみにして), [e:] よりももっとくちびるを横にひきしめて, するどく [イー] と発音します。
J	j	[jɔt]	[ヨット]	むしろ [イヨット] と発音する気持で, するどく [ヨット] と発音します。
K	k	[ka:]	[カー]	日本語で発音する [カー] と同じで, 口を大きくあけて発音します。
L	l	[ɛl]	[エル]	[ɛ] のほうの「エ」を発音し, 「ル」は舌先を上歯の歯茎の裏に軽くつけて, それを離さないで [エル] と発音します。
M	m	[ɛm]	[エム]	[エム] の「ム」は両くちびるを閉じたまま, 息を鼻へ抜きます。
N	n	[ɛn]	[エン]	「ン」のとき, 舌先を上歯の歯茎に必ずつけてくちびるを閉じないで息を鼻へ抜いてください。「エンス」といった感じで発音します。
O	o	[o:]	[オー]	日本語の「オ」よりもくちびるを円め, 突き出すように [オー]。
P	p	[pe:]	[ペー]	両くちびるをかたく閉じ, 破裂させるように [ペー]。
Q	q	[ku:]	[クー]	口を十分とがらせて [クー] と発音します。
R	r	[ɛr]	[エル]	カナでは L との区別が付きませんが, この「ル」は L の「ル」とはまったく違います。舌先を歯茎のほうへ向けて「ルルル」と強くふるわせるか, のどびこを振動させて出す「ル」です。日本人には舌先の R で十分です。
S	s	[ɛs]	[エス]	「ス」は力強くするどく発音します。
T	t	[te:]	[テー]	日本語で発音する「テー」と大体同じですが, [e:] に注意してください。「ティー」にならないように。

U	u	[u:]	[ウー]	○「オー」のときより、もっとくちびるを円め、もっと突き出して[ウー]。
V	v	[faʊ]	[ファオ]	「フ」は F と同様、下くちびるを上歯でかむようにして強く発音し、それに「ア」を添え、「ウ」と「オ」の中間くらいな「オ」をつけて[ファオ]。
W	w	[ve:]	[ヴェー]	下くちびるを上歯で軽くかむようにして、強く[ヴェー]。B「ベー」と混同しないように。
X	x	[iks]	[イクス]	「イ」はするどく発音します。「エックス」ではありません。
Y	y	[ýpsilon]	[ユプシロン]	この「ユ」はくちびるを [u:] と同じ形にして、口の中で短く「イ」と言うのです。なお[ユプシーロン]とも発音されます。
Z	z	[tsɛt]	[ツェット]	「ツ」はするどく発音します。[ɛ] は口の開きが広い「エ」です。「チェット」とならないように。
Ä	ä	[ɛ:]	[エー]	[ɛ] すなわち日本語の「エ」とほぼ同じの、口の開きの広い「エ」の長音です。[e:] との違いに気をつけてください。
Ö	ö	[ø:]	[エー]	カナでは書きようがありません。くちびるは [o:] の形、舌を [ɛ:] の位置にして発音します。つまり口を突き出したまま「エー」というのです。
Ü	ü	[y:]	[ユー]	本当は「ユー」でなく、くちびるは [u:] の形、舌を [i:] の位置にして発音します。つまり口を突き出したまま「イー」というのです。
ß		[ɛs-tsét]		大文字はありません。s と z の合わさったものですが、詳しくは次項 (14 ページ解説 (ii)) で述べます。

ドイツ語の発音

I. 発音の基本

ドイツ語は、**母音の長短とアクセントの位置**に注意すれば、だいたいローマ字ふうに読んでいいのです。(以下アクセントのある母音のカナを太字にしてあります)

Berlin ベルリン	Bonn ボン	Frankfurt フランクフルト	Dresden ドレーズデン
Haus 家 ハオス	Garten 庭 ガルテン	Blume 花 ブルーメ	Postkarte はがき ポストカルテ
offen 開いた オフェン	gut よい グート	lernen 学ぶ レルネン	haben 持つ ハーベン

【注】ドイツ語の名詞は固有名詞に限らずすべて頭字を大文字で書きます。

1) アクセント

ドイツ語ではアクセントは原則として最初のつづりにあります。〈つづり〉とは1個の母音を含む単音の結合体(音節ともいう)のことで、上記の Garten は Gar- と -ten の2つづり、Postkarte は Post-kar-te の3つづりです。これに対し Haus (au は後述の複母音なので1個の母音と見なします)と gut は1つづりというわけです。アクセントが問題になるのは2つづり以上の場合で、上述のように最初のつづりにあるのが原則ですが、語によっては最初のつづりにアクセントを持てないものもあります。たとえば be- や ge- などが始まる語がそれです。その場合、アクセントは第2のつづりに移ります。bekannt [ベカント]「有名な」や gerade [ゲラーデ]「まっすぐな」などです。アクセントについて注意すべきは外来語のアクセントです。外来語の場合はアクセントは最後のつづりか、そのひとつ前のつづりに置かれます。たとえば Nation [ナツィオーン]「国民」ではアクセントは最後のつづりにあり、Violine [ヴィオリーネ]では終わりから2つめのつづりにあります。

2) 母音の長短

- ① アクセントのあるつづりで、**1個の子音の前**にある母音は原則として長い。
- ② アクセントのあるつづりで、**2個以上の子音の前**にある母音は原則として短い。

これは原則であり、例外もかなりあります。たとえば in [イン]「中に」や das [ダス]「それ」は1個の子音の前の母音ですが短音であり、Erde [エールデ]「地球」や Arzt [アールツト]「医者」における E や A は2個または3個の子音の前にありますが長音です。

つぎにアクセントのない語尾の母音(ふつう e)では、後に子音が1つであっても短く発音します。Garten は[ガルテーン]ではありません。アクセントのない語尾 e は弱く [ə] と発音します。[ə] は英語で「あいまい音」と言っているもので、口をほとんどあけずに口のなかで出す「ア」に近い「エ」です。

つぎに母音を必ず「長く」発音するケースが2つあるので説明しましょう。

(i) 同じ母音の重複

aa, ee, oo のように同じ母音を重ねたものを重母音といい、必ず長く発音します。それぞれ「アー」「エー」「オー」です。ただ uu という重母音はなく、また ii の代わりに ie が「イー」となり、準重母音をつくります。

(ii) 母音の後の h

ah, eh, ih, oh, uh のように母音の次に h がある場合、h は前の母音を長音化するしるしで、それ自身は発音されません。たとえば hohl [ホール]「中空の」において、母音 o の前の h は発音されますが、o の後の h は無音となり、o は長音となります。

以上とは反対に、母音を必ず「短く」発音するケースとして、重子音(同じ子音の重複)の前の母音があります。たとえば offen [オフエン]「開いた」の o は ff という重子音の前にあるので短く発音します。その他 Bett [ベット]「寝台」、Himmel [ヒンメル]「空」など。

II. 母音の発音

1) 単母音と重母音

a	[a:] アー	Tal 谷 タール	Name 名前 ナーメ	baden 入浴する バーデン
	[a] ア	arm 貧しい アルム	kalt 寒い カルト	Mann 男、夫 マン
aa, ah	[a:] アー	Haar 髪 ハール	Paar ひと組 パール	Bahn 鉄道 バーン

e	[e:] エー	leben 生きる レーベン	Regen 雨 レーゲン	Paket 小包 パケット
	[ɛ] エ	es それ エス	Heft ノート ヘフト	Bett ベッド ベツト
	[ə] エ	alle みんな アレ	Gabe 贈り物 ガーベ	haben 持っている ハーベン
ee, eh	[e:] エー	Tee 紅茶 テー	Meer 海 メーア	nehmen 取る ネーメン
i	[i:] イー	mir 私に ミーア	Bibel 聖書 ビーベル	Titel タイトル ティーテル
	[ɪ] イ	bis …まで ビス	Film フィルム フィルム	Himmel 空, 天 ヒンメル
ie, ih, ieh	[i:] イー	Brief 手紙 ブリーフ	ihm 彼に イーム	fliehen 逃げる フリーエン
ie	[iə] (アクセントのあるつづりの次) イエ	Familie 家族 ファミーリエ	Lilie ゆり リーリエ	
o	[o:] オー	rot 赤い ロート	Ton 音 トーン	Ofen ストープ オーフェン
	[ɔ] オ	oft しばしば オフト	dort そこに ドルト	Gott 神 ゴツト
oo, oh	[o:] オー	Boot ボート ボート	Ohr 耳 オーア	Lohn 賃金 ローン
u	[u:] ウー	gut 良い グート	Hut 帽子 フート	Blume 花 ブルーメ
	[ʊ] ウ	bunt 多彩な ブント	Luft 空気 ルフト	Mutter 母 ムッター
uh	[u:] ウー	Kuh 雌牛 クー	Huhn にわとり フーン	ruhen 休む ルーエン

【解説】 以上の母音の「長い音」と「短い音」には「質」の違いがあり、長ければ閉音（口の開きが小さく、舌が上の方に押しあげられ母音は高くなる）、短ければ開音（閉音より口の開きが大きく、舌が下に沈む）という原則があるので、これが a を除く他の単母音 (e, i, o, u) のすべてに適用されます。上記の音標文字において a だけは長音にも短音にも同じ文字が用いられているのに、その他の母音は、長音か短音かによって音標文字が使い分けられているのはそのためです。しかしこのような音の「質」の区別は、われわれにはかなりむずかしいことですので、まず長いか短いかという、音の「量」の違いに注意することが大切です。